

チェルノブイリの教訓から学ぶ～低線量被曝の影響

今中哲二さんに聞く——

福島原発事故がもたらした放射能汚染の実像

日時 2012年10月26日(金) 18:00～20:45 (開場17:45～)

場所 文京区民センター 2階 2A会議室
資料代：800円

**講演
と
質疑**

3・11から一年半が経過しました。しかし、東京電力福島第一原発事故は収束の見通しすら見えず、事故が引き起した終わりの見えない放射能汚染が、私たちの未来に多くの不安をもたらしています。「1979年に発生した米スリーマイル島原発事故。この事故から真剣に学ばなかったことが今回の事故を招いた原因」と、今中哲二さんはいいます。86年旧ソ連チェルノブイリ事故では、現地調査を繰り返し国際共同研究報告などにまとめ、福島原発事故では、直後に調査チームを立ち上げ飯館村に入村、汚染状況を調査。信頼に欠く政府発表に代わる正確なデータ・事実を発信し続けてきました。福島原発事故の現状、放射能放出と汚染の実態、チェルノブイリ事故の汚染地域との比較、食の放射能汚染～低線量被曝の影響、チェルノブイリ法と福島原発事故被災者支援法、評価と課題…など。今中哲二さんに聞く2時間半! を通じて共に考えます。ぜひ、ご参加ください。

お申込み

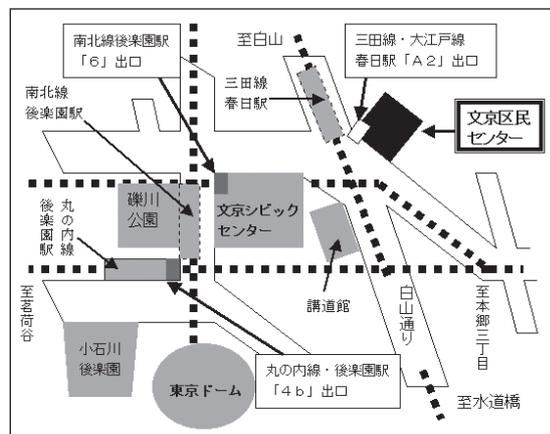
核・原子力のない未来をめざす市民集会 <http://mirai-shimin.blogspot.jp/> お申込みフォームから。または、市民活動共同事務所気付・今中哲二さんに聞く講演会実行委員会 Email mirai-shimin@gmail.com TEL03-3200-9115 FAX03-3200-9234 まで。■定員350人 予約優先



今中 哲二

いまなか・てつじ プロフィール

●京都大学原子炉実験所助教 ●1950年広島市生まれ。73年大阪大学工学部原子力工学科卒業。76年東京工業大学大学院修士課程原子核工学修了。76年より現職。専門は原子力工学、環境影響評価・環境政策。大学院時代より日本の原子力開発の在り方に疑問をもち始め、実験所勤務当初から原子力をもつデメリット、つまり“原発をやめる”ことに役立つ研究(広島・長崎原爆による中性子線量評価に関する研究、チェルノブイリ原発事故影響の解明、セミパラチンスク核実験場周辺での放射能汚染調査など)に徹してきた ●著書に、『チェルノブイリ事故による放射能災害 国際共同研究報告書』(今中哲二編、技術と人間 98年)、『知ればなっとく脱原発』(共著：今中哲二、高木仁三郎、西尾漠、小出裕章ほか 七つ森書館 2002年)、『チェルノブイリを見つめなおす 20年後のメッセージ』(今中哲二、原子力資料情報室 06年)、『自分と子どもを放射能から守るには(ウラジーミル・パベンコ、ペラルーシ・ベルラド放射能安全研究所編、日本語版特別編集)』(監修：今中哲二、世界文化社 11年) など。



●都営三田線・大江戸線「春日駅A2」出口 徒歩2分、東京メトロ丸の内線「後楽園駅4b」出口 徒歩5分 ●東京メトロ南北線「後楽園駅6番出口」徒歩5分、JR水道橋駅東口徒歩15分 ●都バ(都02・都02乙・上69・上60)春日駅徒歩2分

■主催：今中哲二さんに聞く講演会実行委員会

■呼びかけ団体：核・原子力のない未来をめざす市民集会／環境まちづくりNPOエコメッセ練馬／東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合／ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン／原発のない未来を!なかのアクション／脱原発と平和を武蔵野市からすすめる市民の会／核・原発のない未来を子どもたちに@練馬／東京・生活者ネットワーク ■協賛団体：原子力資料情報室